

メキシコ政治情勢（2026年4月）

〔概要〕

【内政】

- 6日付フィナンシエロ紙は大統領支持率にかかる世論調査結果を発表。支持率は70%。
- 16日、シェインバウム大統領は、エルナンデス女性大臣が辞職する旨発表した。
- 20日、テオティワカン遺跡で銃撃事件が発生。カナダ人女性1名と犯人の計2名が死亡した。
- 22日、シェインバウム大統領は、21日にダミアン行政法務顧問が辞職したことを発表した。
- 23日、燃料密輸（Huachicol Fiscal）に関与した疑いでインターポールにより国際手配書が出ていたファリアス・ラグナ・メキシコ海軍少将が、アルゼンチン・ブエノスアイレスにて現地当局に逮捕された。
- 27日、治安当局は、ハリスコ新世代カルテル（CJNG）の幹部のアウディアス・フローレス・シルバ（通称「エル・ハルディネロ」）を逮捕した。
- 28日、シェインバウム大統領は、モンティエル福祉大臣が辞任し、後任にラミレス大統領府調整官（前公共教育大臣）が就任する旨発表した。

【墨米外交】

- 19日、チワワ州において麻薬製造拠点での作戦から帰還していた治安当局の車両が山道から転落する事故が発生。乗車していた米大使館員2名及びチワワ州当局者2名が死亡した。その後、米大使館員はCIA職員だったと報じられ、またチワワ州当局は5月12日、米大使館員がチワワ州検察庁の捜査官らと接触していたことを認めた。
- 29日、米司法省は、ニューヨーク南部連邦検事局が、ロチャ・シナロア州知事及びシナロア州政府・当局関係者9名を違法薬物及び銃器取引の関与の疑いで告訴したと発表した。

【その他外交】

- 1日、シェインバウム大統領は、デ・ラ・フエンテ外相が健康上の理由で辞職し、後任にベラスコ外務省北米担当次官を指名するべく上院に提案する旨発表した。8日、上院にてベラスコ外相の就任が承認された。
- 2日、内務省及び外務省は、国連強制失踪委員会の報告書に関する共同プレスリリースを発出。報告書を拒否する旨声明を出した。
- 16～19日、シェインバウム大統領は、スペイン・バルセロナを訪問し、同地において開催された第4回「民主主義サミット」に出席した。
- 19日から、タールク国連人権高等弁務官がメキシコを訪問した。

[本文]

【内政】

1 大統領支持率等世論調査結果

6日付フィナンシエロ紙は大統領支持率にかかる世論調査結果を発表。支持率は70%と先月の世論調査から2ポイント下がっているものの、半年以上70%前後で高い支持率を維持。詳細は以下のとおり。

(1) シェインバウム大統領の取組を支持するか。

ア 支持する : 70% (前回(2月、以下同じ) 72%)

イ 支持しない : 29% (前回28%)

ウ 分からない : 1% (前回 0%)

(2) シェインバウム政府のトランプ米大統領との関係構築についての評価如何。

ア とても良い、又は良い : 32% (前回(2月、以下同じ) 25%)

イ とても悪い、又は悪い : 55% (前回65%)

(3) 墨米関係についての評価如何。

ア とても良い、又は良い : 31% (前回(2月、以下同じ) 27%)

イ とても悪い、又は悪い : 51% (前回61%)

(4) 国内の主要な問題は何と考えるか。

ア 治安悪化 : 79% (前回(2月、以下同じ) 60%)

イ 経済及び失業 : 10% (前回15%)

ウ 汚職 : 5% (前回15%)

(6) 各分野におけるシェインバウム政権の取組を如何に評価するか。

ア 経済

(ア) とても良い、又は良い : 53% (前回(2月、以下同じ) 56%)

(イ) とても悪い、又は悪い : 42% (前回39%)

イ 汚職

(ア) とても良い、又は良い : 19% (前回16%)

(イ) とても悪い、又は悪い : 79% (前回78%)

ウ 治安

(ア) とても良い、又は良い : 53% (前回50%)

(イ) とても悪い、又は悪い : 42% (前回45%)

エ 組織犯罪

(ア) とても良い、又は良い : 19% (前回17%)

(イ) とても悪い、又は悪い : 77% (前回78.6%)

オ 社会保障

(ア) とても良い、又は良い : 70% (前回71%)

(イ) とても悪い、又は悪い : 25% (前回24%)

2 女性大臣の辞職

16日、シェインバウム大統領は、早朝記者会見において、エルナンデス女性大臣が辞職する旨を発表した。エルナンデス氏はその後、国家再生運動（MORENA）の全国選挙委員長に就任。

3 テオティワカン銃撃事件の発生

20日、テオティワカン遺跡で銃撃事件が発生。カナダ人女性1名と犯人の計2名が死亡。負傷者は13名で全員外国人。内訳は、米国6名、コロンビア3名、ブラジル2名、カナダ1名、ロシア1名。犯人は27歳男性の単独犯とされている。同20日、シェインバウム大統領は、在墨カナダ大使館と連絡をとり、当該事件を徹底的に捜査するよう治安閣僚会議に指示を出したと明らかにした。

4 行政法務顧問の交代

22日、シェインバウム大統領は、早朝記者会見において、21日にダミアン行政法務顧問が辞職したことを発表し、後任にアルカルデMORENA党首を指名した。

5 アルゼンチンにおいて燃料密輸の被疑者を逮捕

23日、アルゼンチン当局は、同国ブエノスアイレスにおいて、燃料密輸（Huachicol Fiscal）に関与した疑いで米国から告発を受け、インターポールから国際手配書（赤手配書）が出ていたファリアス・ラグナ・メキシコ海軍少将を逮捕した。海軍省幹部の逮捕は、2025年9月に兄の海軍中將が逮捕されて以来、二人目。ファリアス少将は2025年11月から逃亡していた。

6 麻薬カルテル幹部の逮捕

27日、治安当局は、ハリスコ新世代カルテル（CJNG）の幹部のアウディアス・フローレス・シルバ（通称「エル・ハルディネロ」）を逮捕した。「エル・ハルディネロ」は2月に死亡した最高幹部「エル・メンチョ」の後継者候補の一人とされていた。治安閣僚会議は、現政権開始後の19か月間に情報収集活動及び米国当局との情報交換により逮捕に至ったと発表。右逮捕作戦において連邦当局は、偵察機、ヘリコプター等を配備し520人以上の治安部隊を動員した。

7 福祉大臣の交代

28日、シェインバウム大統領は、モンティエル福祉大臣が辞任し、後任にラミレス大統領府調整官（前公共教育大臣）が就任する旨を発表した。モンティエル氏はMORENA党首に就任。

【墨米外交】

1 チワワ州における米治安当局者の治安作戦への関与

(1) 19日、チワワ州において麻薬製造拠点での作戦から帰還していた治安当局の車両が山道から転落する事故が発生。乗車していた米大使館員2名及びチワワ州当局者2名が死亡した。

(2) ジョンソン駐墨米大使は当該大使館員について指導員とし、自身のSNSアカウントで弔意を表した。チワワ州検察は、右大使館員2名について、作戦実施地点から離れた場所で治安協力に関する訓練に参加していたとして、作戦自体への関与は否定。シェインバウム大統領は、当該作戦はチワワ州が実施していたのものであり、連邦政府は知らされていなかったとしつつ、国家安全保障法に基づき米との共同作戦は行っていないところ、本件が同法に抵触する疑いがないか調査するとした。

(3) 21日付でワシントン・ポストは、死亡した米大使館員がCIA職員だったとの記事を発出。

(4) 23日、カンボス・チワワ州知事は、ガルシア・ハルフシュ治安・市民保護大臣と会談。

(5) 24日、カンボス知事は、米捜査官死亡事故の調査チームを設置する旨発表した。

(6) 27日、ハウレギ・チワワ検事長は、作戦中に、他国の公務員と名乗る外国人が現場に居合わせたことに関連する組織的な不手際について政治的責任を取るとして辞任した。

(7) 5月12日、チワワ州当局州検察庁らと接触していたことを認めた。

2 米司法省によるシナロア州知事及び同州関係者に対する告訴

(1) 4月29日、米司法省は、ニューヨーク南部連邦検事局が、ロチャ・シナロア州知事及びシナロア州政府・当局関係者9名を違法薬物及び銃器取引の関与の疑いで告訴したと発表した。前週、ジョンソン駐メキシコ米大使が、カルテルと繋がりのあるメキシコ政府高官に対する米国の圧力を強化すると発表していた。

(2) 同29日、ロチャ・シナロア州知事は、告発を断固として拒否する旨Xに投稿。「第四次変革」に対する攻撃でもあると主張。

(3) 墨外務省は、プレスリリースにおいて、米国政府より複数の人物に対する身柄引き渡し請求を28日に受領したことを報告しつつ、メキシコ国内法に基づき当該請求を審査するため、連邦検察庁に送付したと発表。他方、今回の情報公開の在り方について、米国大使館に対し抗議文を送付する予定と発表した。

(4) シェインバウム大統領は、30日の会見において「管轄権を有する連邦検察庁が、メキシコ国内法に基づき確固たる証拠を受け取った場合、あるいは独自の捜査において犯罪の構成要件を満たす要素を発見した場合には、我々の管轄下において法に従って手続きを

進めるべき。我々は、罪を犯した者を決して庇うつもりはないが、明確な証拠が存在しないのであれば、米国司法省によるこれらの告発の目的が政治的であることは明らか」と述べた。ジョンソン米大使について「大使は内政干渉をするべきではない」と述べる形で、主権尊重の立場を強調。

【その他外交】

1 外務大臣の交代

1日、シェインバウム大統領は、デ・ラ・フエンテ外相が健康上の理由で辞職し、後任にベラスコ外務省北米担当次官を指名するべく上院に提案する旨を発表した。8日、上院で賛成多数で承認された。

2 国連強制失踪委員会の報告書に関する共同プレスリリースの発出

2日、内務省及び外務省は、国連強制失踪委員会の報告書に関する共同プレスリリースを発出。右プレスリリースによればメキシコ政府は、同報告書が偏向的であり、メキシコ政府が提出してきた分析、最新情報を考慮に入れていないとして、報告書を拒否する由。昨年6月には、同委員会がメキシコに対し失踪者に関する情報提供要請を公表すると発表した事に関し、根拠を欠く指摘がいくつか含まれていると抗議している。

3 シェインバウム大統領の第四回「民主主義サミット」出席

4月16～19日、シェインバウム大統領は、スペイン・バルセロナを訪問し、同地において開催された第4回「民主主義サミット」に出席。シェインバウム大統領は同サミットで演説を実施し、G20でも提示した、世界全体の軍備費の10%を緑化・森林再生事業に充てる提案を改めて提示、次回のサミットをメキシコで行うことを提案した。また、18日、ブラジル、スペイン、メキシコ各政府によるキューバ情勢に関する共同声明が発出され、「キューバ国民が直面している深刻な人道危機に対し、強い懸念を表明するとともに、この状況を緩和するために必要な措置を講じ、国民の生活状況を悪化させる行為や国際法に反する行為を避けるよう強く求める」としている。同サミットのマージンにおける二国間会談について、メキシコ政府はプレスリリース等を発出していないが、報道や各国発表によると、「シェ」大統領は、スペイン、ウルグアイ、ブラジル首脳と挨拶して4名で記念撮影、スペイン首相とは国際情勢及びEUメキシコ関係に関して立ち話、ウルグアイ大統領とは二国間会談を実施。ベラスコ外相は、スペイン外相と二国間会談、スペイン、ブラジル及びノルウェー外相との間でキューバの人権状況に関する会合を実施した。その後、ベラスコ外相はブリュッセルに移動し、カラスEU外務・安全保障政策担当上級代表、コスタ欧州理事会議長、ベルギー外相らと会談。「EU・メキシコ近代化グローバル協定」の更新に向けた進展の協議等を行った。

4 ターク国際人権高等弁務官のメキシコ訪問

19日から、ターク国連人権高等弁務官がメキシコを訪問。20日には内務大臣、環境・天然資源大臣、女性省「暴力と無縁の生活への権利」担当次官、国立先住民研究所所長、最高裁裁判長とそれぞれ会談。各機関からは、失踪者の捜索、暴力の原因への対応、環境保護、女性・帰国者・生態系保護活動家の権利保障、および先住民族への支援に関する措置についての報告が提出された。